国内情報

ゲノミック評価について中四国酪農大学校・岡山種雄牛センターにて研修会実施
～農場HACCP認証農場現地研修会へ参加～

生産部　田﨑　穂菜美

去る令和７年８月19日から21日にかけて、中四国酪農大学校（岡山県真庭市）にて、中央畜産会主催の「農場HACCP認証農場現地研修会」が開催されました。この研修会は、家畜防疫・衛生指導対策事業の一環として、全国の畜産関係者を対象に家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保を目的に毎年実施されているものです。

今回、当団は地方競馬全国協会より助成を受けている「次世代畜産技術者育成推進実証事業」の一環として、研修プログラムの一部を担当し、最新技術である「ゲノミック評価」をテーマとした研修を実施しました。参加者は中央畜産会関係者、家畜保健衛生所職員、本事業に協力いただいている学校の教員など、計19名でした。

【１日目：中四国酪農大学校】

１日目は、乳用牛を対象とした「ゲノミック評価の活用」について研修を行いました。まず、当団が推進する次世代畜産技術者育成推進実証事業の概要を説明し、ゲノミック評価が乳用牛改良にどのように貢献するかを解説しました。特に、中四国酪農大学校で飼養されている乳用牛の実データを用いて、具体的な評価方法と活用事例を紹介しました。参加者からは「実際のデータを見ることで理解が深まった」という声がある一方、「現場での活用方法については、もう少し具体的な事例が知りたい」といった意見も頂きました。質疑応答では、評価値の読み方や交配計画への応用について活発な議論が交わされました。

【２日目：岡山種雄牛センター】

２日目は岡山種雄牛センター（岡山県真庭市）に場所を移し、肉用牛を対象とした「ゲノミック評価」について研修を実施しました。研修では、当団が開発したゲノミック評価システム「*G-Eva*®」を用いた実演を行い、実際の操作画面を見ながら、乳用牛同様に結果の読み方や交配計画について学んでいただきました。参加者の多くが初めてシステムに触れるため、操作の流れを一つひとつ丁寧に説明しました。

また、岡山種雄牛センターの場長による施設案内も行われ、参加者は実際に飼養されている種雄牛を見学し、採精作業の様子を視察しました。「優秀な種雄牛を実際に見ることができて有意義だった」との感想が寄せられました。

参加者の反応と今後の展望

研修後に実施したアンケートでは、「ゲノミック評価の重要性を改めて認識した」「学校での取り組みを地域の生産者に広めていきたい」といった前向きな意見を多数いただきました。また、「継続的な研修の機会を設けてほしい」「より実践的な活用事例を学びたい」という要望もあり、本技術への関心の高さがうかがえました。

当団では、今回の研修のような取り組みを通じて、ゲノミック評価技術の普及と現場での活用促進に努め、今後も、全国の畜産関係者や教育機関と連携しながら、次世代を担う技術者の育成と最新技術の周知活動を継続してまいります。

盛岡・岡山で和牛改良講演会を開催

【8/28　盛岡種雄牛センター】

８月28日、岩手県盛岡市の姫神ホールにて、盛岡種雄牛センター主催の「令和７年度和牛講演会」が開催されました。晴天に恵まれまだまだ残暑の厳しい日でしたが、東北地方を中心に約300名の生産者・関係者の皆様がご来場くださり、例年同様大変賑やかな雰囲気での開会となりました。

講演に先立ち、当団理事の田中による開会挨拶に続き、盛岡種雄牛センターの沖津より「新規選抜種雄牛について」の情報提供を行いました。今年８月にR03現検前期・後期から新規選抜された種雄牛５頭（P黒1202知恵照・P黒1203武知恵・P黒1206若幸久・P黒1232忠太１・P黒1198伊勢之舞）について、同センターの一押しとした忠太１と伊勢之舞を中心に、枝肉六形質の成績だけでなく、脂肪酸組成の良さや発育関連形質といったそれぞれの特長を引き出し、紹介しました。また、８月時点で供給中の種雄牛の中で百合美と糸勝百合をオススメとして紹介し、現場で増加している福之姫系統母体への交配推奨種雄牛についても改良したい形質ごとに提案しました。

メインとしては、茨城県畜産農業協同組合連合会の代表理事会長・中川徹氏に、「これからの和牛繁殖・肥育経営について」と題してご講演いただきました。茨城県畜産農業協同組合連合会は、肉用牛事業を中心とした専門農協連として、自農場での和牛肥育・生産だけでなく、農家や関係者への技術指導や情報提供を行っています。そして、「名人会」の事務局としても、枝肉研究会・肥育勉強会の開催や牛肉の脂肪分析など、肥育技術向上と美味しい牛肉づくりに向けた取り組みを行っています。講演内容は、和牛改良の歴史と各時代の主要種雄牛や血統の組み合わせについて、肥育牛の育成・飼養管理、枝肉づくりについて、牛肉の脂肪酸組成と食味、牛舎設計について…など。限られた時間でしたが、非常に幅広くお話しいただきました。その中で、長年繁殖や肥育に携わってきた経験から感じている事として、「一流の血統でなくとも、毎年育てやすい大人しい子牛を産んで大事に育て、その子牛はいつも順調に成長して肉になってくれる。そのような雌牛が結局は農場の経営を支えており、重要。血統ばかりを見て牛を揃えるべきではないと考えているので、もう一度自農場を見直してみてほしい」と話されていました。また、牛舎設計について触れた際の「自分たちの作業のしやすさではなく、牛のストレスの少なさを最優先にすべきで、それが最終的に良い牛づくりに繋がる。そのような考え方のできる人が、これからの日本の畜産を支えていくことになるのではと

思っています」との言葉が印象的でした。

最後の質疑応答では、「肥育牛におすすめの飼料はあるか」といった牛を育てる方々からの具体的な質問が複数出ていました。真剣に耳を傾け、熱心にメモを取られる様子も見られ、ご参加いただいた皆様にとって非常に有意義な講演会となったことが感じられました。

最後に、お忙しいところご講演いただいた中山代表理事会長と、ご来場いただいた沢山の皆様に御礼申し上げます。

（総務部 技術・情報室　倉上　愛梨）

【11/5　岡山種雄牛センター】

11月５日、岡山県津山市のグリーンヒルズ津山にて、岡山種雄牛センター主催の「令和７年度和牛改良講演会」が開催されました。爽やかな晴天となったこの日の会場には、中四国地方を中心に約120名の生産者・関係者の皆様にご来場いただき、例年同様賑やかな雰囲気での開会となりました。

講演の前に、当団理事の田中による開会挨拶に続き、岡山種雄牛センターの境より、情報提供として「R03現検新規選抜種雄牛について」の紹介を行いました。今年、R03現検前期及びR03現検後期から新規選抜された種雄牛４頭（P黒1184鶴姫重・P黒1198伊勢之舞・P黒1206若幸久・P黒1232忠太１）について、現在の畜産情勢にマッチしている種雄牛の紹介。そして、当団改良部部長の黒木より、「今後の肉用牛改良の展望とゲノミック評価について」と題し、情報提供がありました。ゲノミック評価の算出方法に加え、BMSだけでなく小ザシなどの脂肪形状の遺伝的能力評価の実用化、ICTを活用した飼いやすさや耐暑性に関する活動等記録の収集・解析事業、食味関連形質の種雄牛の遺伝的能力評価実装のためデータ収集を行っており、新たな評価形質の作出に向けた研究について紹介がありました。

メインの講演では、家畜改良センター十勝牧場場長の河村正氏に、「新たな肉用牛の改良増殖目標と多様なニーズに対応した牛・牛肉生産」と題して、家畜改良センターの概要とともに改良増殖目標の取り組みや課題、今後の枝肉と和牛の展望についてお話しいただきました。家畜改良センターは福島県にある本所に加え、全国に牧場や支場があり、全国的な視点での家畜の改良増殖の推進のために種畜等の生産・供給や遺伝的能力評価に取り組んでおります。改良増殖目標における現状と課題は、脂肪交雑重視の和牛生産となっている中、消費者ニーズが多様化しているほか、近交係数の上昇、飼料コスト上昇の観点から求められる効率的な肉用牛生産の必要性が高まっている点を挙げられました。

これらの課題から、

①様々な消費者ニーズに対応するためオレイン酸等による食味の向上

②食味、繁殖性、飼料利用性など、新たな改良形質に着目し、遺伝的多様性を確保

③肥育形態の１つとして適度な脂肪交雑で生産コストの低減等が期待できる短期肥育・早期出荷の推進

を主な方向性として掲げ、増殖目標の策定を行ったとのことです。①においては、食味の向上に重点を置いた種雄牛及び繁殖雌牛の選抜、食味等に関する評価指標の検討。②・③においては、データを蓄積し指標化に向けて準備を進めているとのことでした。

最後に、家畜改良センター生産の当団種雄牛について、新規選抜された忠太１、高い脂肪の質に定評のある貴隼桜等に加え、期待の候補牛についてもご紹介いただき、ますます今後登場する種雄牛が楽しみになりました。

質疑応答の時間には複数の質問が出るなど盛り上がりを見せ、ご参加いただいた皆様にとって非常に有意義な時間となったことが感じられました。

最後に、お忙しいところご講演いただいた河村場長と、ご来場いただいた沢山の皆様に御礼申し上げます。

（岡山種雄牛センター　狩野　春香）